

TAKE FREE

滋賀県立大学  
県大 jiman

# 県大 jiman

けんたいじまん

みんながみんなの自慢!な広報誌

2026.JUL  
vol.038



〈特集1〉

## 自慢のおいしい毎日

〈特集2〉

## 県大生寄り道マップ



〈突撃! jiman な先生〉  
人間関係学科 杉浦 由香里 准教授  
〈After School Report〉  
オーケストラ部



〈県大の星〉関西万博に携わったお2人  
studio m!kke Studio on\_site  
小林 広美さん 大野 宏さん

### 滋賀県立大学公式マスコットキャラクターが決定します! /

学生・教職員・卒業生・一般の皆さまから全 264 件のご応募をいただき、一次選考を通過した 29 作品を対象に、5 月 18 日～ 26 日に一般投票による二次選考を実施しました。期間中には計 1,960 票もの投票をいただき、最終候補 6 作品が決定しました。最終選考の後に滋賀県立大学の公式マスコットキャラクターが決定いたします。選考結果については大学ホームページをご確認ください。なお、次号ではマスコットキャラクター特集の掲載も予定しています。ぜひ楽しみに!



#### 県大 jiman 編集スタッフ

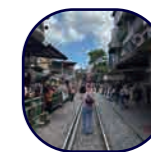
谷澤 忠朗  
知念 武玖  
後藤 玲奈  
宿村 咲綾  
木村 知勢  
川村 悠真  
辻 真唯子  
渋谷 こはる  
楠本 彩子  
近藤 佑里香  
鍋谷 彩津  
事務局  
谷村 泰宏  
浅井 恵

担当させていただいた記事では、たくさんの方の美味しい食べ物特集しました。大学生になって食生活が不安定になってしまっている人も多いかもありませんが、毎日3食美味しいご飯を食べたいですね! まだまだ食べたいものもまだまだ多く、いっぱいチャレンジしていきたいです!



人間文化学部  
生活デザイン学科  
西村 紅葉

編集後記



人間文化学部  
生活デザイン学科  
大林 菜由

今回、「県大 jiman」に参加して初めて記事を担当させていただきました。実家暮らしという点もあり、これまで大学周辺の色々な場所に行く機会があまりなかったのですが、彦根にもこんなに素敵なお店があるのだと、新しい発見がたくさんあり、とても楽しく取材することができました! 3年生になると空きコマや放課後の時間が増えるので、これからはもっと彦根のさまざまなスポットを訪れてみたいと思っています。特に雑貨屋や服屋を巡ることが好きなので、少しずつ開拓していけたらいいなと思っています!

### 読者アンケート

読者アンケートを実施しています。下のQRコードからご回答をお願いします!



アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で5名様に大学オリジナルトートバッグをプレゼントいたします!  
どの色が当たるかは楽しみに!

### 滋賀県立大学公式「Instagram」&「YouTube」/

滋賀県立大学では、Instagram と YouTube に大学公式ページを開設し、運用しています。Instagram では本学のキャンパスライフを様々な視点から、YouTube では大学のPR動画や学生のインタビュー動画等を発信しています。下のQRコードから、ぜひ「いいね!」とフォローをお願いします!

Instagram ↓



UNIV\_SHIGAPREF

YouTube ↓



2026年1月リニューアル!



バックナンバーは  
こちらから!

# 県大 jiman

滋賀県立大学広報誌「県大 jiman」第38号 (2026.7発行)  
発行 | 滋賀県立大学 事務局 広報室 (経営企画課)  
制作 | 学生広報スタッフ  
連絡先 | 〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500  
TEL : 0749-28-8200  
E-Mail : keiei\_kikaku@office.usp.ac.jp



# Jimanの / おいしい毎日

今回はたくさんの県大生のお腹を満たしている大学フードについてご紹介します!

食事を楽しみながらコミュニケーションスペースとしてご利用ください!

## カフェテリア

A6棟 1F(A2棟側)  
 営業・対応時間(定休日:土・日・祝)  
 月~金 11:00~14:00 17:00~19:00  
 ※休業期間は営業時間を短縮しております

ラインナップはとても豊富で、週替わりのメニュー展開で飽きることなく毎日食べていただけるカフェテリアです。

### 人気メニューランキング

- 1 週替わり定食
- 2 豚塩カルビ丼
- 3 オクラ巣籠もり玉子

### みんなの献立

丼の種類も豊富!

フルコースでも1000円以内!

### 新入生へのオススメ

#### フェアメニュー

「九州沖縄フェア」や「みちのく北海道フェア」などそれぞれの食文化に触れることもできますので是非ご利用ください。また、県大生協独自で近江牛フェアを実施することもあります。近江牛フェアは滋賀県の大学だからこそ企画で、通常ではあり得ない金額で近江牛を楽しむことができます!

### 利用時間について

利用人数が多い時間帯

12:10~12:40

夕食営業

17:00~19:00

お昼に食べられないメニューもたくさんあるので是非ご利用ください

おすすめの時間帯

11:00~12:00

12:40~

並ばずに利用できます!  
 3限の準備をしたうえで来店していただくのも一つの手です

### 編集者からヒトコト!

チキン南蛮がおすすです!  
 大きくて2個あるのでお気に入りです!

## 生協のショップ

A6棟 1F(A3棟側)  
 営業・対応時間(定休日:土・日・祝)  
 月~金 10:00~18:30  
 ※休業期間は営業時間を短縮しております

食べ物だけではなく、家電、文具、日用品、切手、本、雑誌まで販売しています。淹れたてのコーヒーもご用意しているので勉強のおともにご利用ください!

### パンの人気ランキング

- 1 メロンクロワッサン
- 2 米粉パン
- 3 塩バターパン

### 長年人気の定番パン

揚げパン

タマゴドーナツ

### 意外と人気の商品

オリジナルクッキー

ひっそりと置いていても月に50個以上は売れています。いろんな種類があるのでぜひ色々試してみてくださいね!

### こんな商品も販売しています!!

学内の団体とコラボして様々な商品を展開しています。(近江楽座の政所茶レン茶一の煎茶・ほうじ茶・番茶の販売やあかりんちゅのキャンドル販売など)また、大学のオリジナルグッズも販売しています。皆さんも活動の成果を生協ショップで展開してみませんか?

### スタッフさんがオススメのパン

値段が安くおいしい  
 コスパが良いです

塩チョコクロワッサン

ごま団子ドーナツ

中にチーズがたっぷり入っていて、毎日食べても飽きないです!

バジルチーズプール

たらこチーズプール

## ナシェリア

2024年秋にリニューアルオープンしました!

人間看護学部棟 1F  
 営業・対応時間(定休日:土・日・祝)  
 月~金 8:30~17:00  
 ※休業期間はお休みしております

### 人気のメニュー

- 1 ハヤシオムライス
- 2 ミートソースパスタ
- 3 たまごスープ

### おすすめポイント!

入り口には棚があり、季節によって異なる展示がされているので利用する際に見てみてください!また、カウンター席も用意しているのでおひとり様でも気軽にご利用いただけます!

### 意外と人気の商品

ベーコンポテトドッグ

「280円」と県大のパンの中では高めの商品ながら、リピーターさんが多い商品です!ぜひ一度お試しあれ!

### Morning Menu 8:30~

焼きたてのパンが食べられます!  
 はちみつバターパンや塩バターパンは大人気です!

### Lunch Menu 11:00~13:30

ナシェリアでしか食べられないパスタやスープ、ワンプレートランチをお楽しみください!

### Cafe Menu 13:30~17:00

アイスやパフェ、タピオカ入りドリンク(夏期限定発売予定)などを提供しています。おやつ時間はナシェリアで決まり!!

## カフェプロジェクトにインタビュー!!

Q1 どのような活動をしていますか?

「学生の、学生による、学生のための運営」をモットーに学生が企画からメニュー考案に携わり、メニューが完成した後も、広報活動をしたり、売れ行きの分析をしたりしています。

Q3 これからの目標は何ですか?

「学生の、学生による、学生のための運営」というモットーを忘れずに、今後もたくさん新メニュー販売やイベント開催をしたいです!

Q4 今まで作ったものを見せてください!

昨年度は21種類の新商品を発売しました。パフェだけでなく、ランチメニュー、その他カフェメニューも作りました!

Q5 活動のやりがいを教えてください

メニュー作りの制約内で、メンバーと話し合い試行錯誤しながら活動を進めていくことです。また、生協の方と関わりながら経営に携わることができるので、今後役に立つと思います。

Q2 活動開始のきっかけは?

- ①自家製パン製造の強化
  - ②看護学生以外の利用を増やす
  - ③憩いの場の創出
- 「学生の声を形にするベーカリーカフェ」としてこの三つを解決するために活動を開始しました。

朝・昼・カフェタイム、いつでもお待ちしております!ぜひ、お越しください!

# 生大寄道マップ

実際に編集者が  
行ってきました!

友達とでも一人でも、空きコマや放課後にふらっと寄り道できるような県大の  
周辺のスポットをたくさんお見せします!

実際にいろんなお店に行ってみて、  
大学周辺は田んぼが多くて自然のイメージが  
強かったですが、麻辣湯やアサイーボウルなど  
流行りのお店やおしゃれな空間のお店もあって  
新しい発見がいっぱいで楽しかったです!



## パン処直

〒522-0056 滋賀県彦根市開出今町 1733-5 リバノースビル3  
営業時間 8:00-18:00  
定休日 月曜日、日曜日

小さくひっそりと営業しているパン屋さん。  
珍しい種類のパンも多く、コンプリートしたくなる  
ような楽しさがある!  
バケットクロワッサンとあんバターが人気で、  
しっとりした食感で美味しい!



## 庄塚公園バラ園

〒522-0056 滋賀県彦根市開出今町 1343  
入園無料、駐車場あり  
定休日 なし

公園内に約100種類以上のバラが一面に  
咲いていて、バラの香りとともに美しさに感動!  
バラが見頃の時期はキッチンカーが出店しているので  
バラを見ながら楽しめます。  
5月下旬~6月上旬頃、10月中旬頃の春と秋が見頃!



## Clap dining

〒522-0057 滋賀県彦根市八坂町 2964-3  
営業時間 11:00-18:00  
定休日 水曜日

県大から歩いてすぐにあるカフェレストラン。  
店内はおしゃれで落ち着く場所で、  
空きコマや放課後にゆっくりできる。  
お昼時は混みやすいので注意!  
県大生割でランチセットが  
150円(200円)引きでお得に食べられる!



牛肉とオニオンの  
デミグラスソースオムライス

カルボナーラ

ランチセットA ¥1500  
メイン+ サラダ+ ドリンク

ベルロード沿いには飲食店や居酒屋が盛りだくさん!  
その日の気分に合わせて、色々なジャンルのお店を楽しめる!



駅のすぐ目の前にはビバシティがあるよ!  
ショッピングセンターの中はもちろん、周辺にも飲食店がたくさん!  
電車通学の人でもショッピングや食事を楽しめます!

## リモック Imoq

〒522-0041 滋賀県彦根市平田町 410  
営業時間 10:00-17:00  
定休日 月曜日

ベルロードにあるアサイーボウル屋。  
かわいい店内で食べられる濃厚でボリュームーな  
アサイーボウルがおいしい!  
自分好みにトッピングを追加できて、あっさりとした  
グreekヨーグルトも選べるよ!  
テイクアウトが可能で、学校に持ち帰って食べられる!



アサイーボウル  
¥1200

モモアサイーボウル  
¥1350

## コーヒーカンタータ

〒522-0053 滋賀県彦根市大藪町 2490  
営業時間 8:00-19:00  
定休日 月曜日

温かく落ち着いた雰囲気の良い喫茶店。  
モーニング利用もでき、デザートが絶品!  
ふわふわ濃厚なフレンチトーストがおすすめ♪  
コーヒーや紅茶の種類が非常に多く、  
自分の好みの味が見つかるはず!



ホットサンド  
¥700

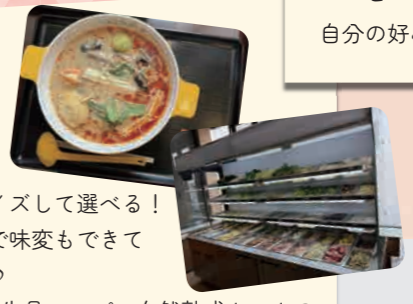
フレンチトースト  
¥620

チーズケーキ  
¥460

## QQ 麻辣湯

〒522-0041 滋賀県彦根市平田町 63  
営業時間 11:00-22:00  
定休日 なし

具材を自分好みにカスタマイズして選べる!  
具材の種類が多く、調味料で味変もできて  
何度でも行きたくなるお店♪  
1辛~4辛の麻辣スープから牛骨スープ、自然熟成トマトの  
3種類からスープを選べて、辛いのが苦手な人にも  
おすすめ!



## 少し遠出してみるなら...

彦根といえば彦根城!  
桜や紅葉の季節は特に、景色を見に  
たくさんの観光客が訪れる!  
毎日数回ひこにゃんに会えるよ!  
キャスルロードではレトロな街並みを  
散策しながら食べ歩きを楽しめる♪  
県大からバスで15分、自転車で25分程度



©彦根市



## 部員に聞きました! Q & A

### Q. オーケストラ部の魅力は?

一人ひとりの音がしっかりと響き、それぞれの個性を生かした演奏ができるところが魅力です。



### Q. 人数が少ないからこそ良いところは?

全員の顔が見えること。困っている人がいたら自然と助け合えます。



暖かい季節には、キャンパス内で屋外演奏を行うこともあります。

### Q. 初心者でも大丈夫?

大学から始めた部員もいます。やさしく教えてもらえるので、安心して来てください!



### Q. オケ部ならではの文化は?

学年関係なく意見を言いやすい! 本音で話し合っ、より良い演奏をつくりま。



### Q. 定期演奏会への思いは?

まずは自分たちが楽しむこと! その気持ちを、聴きにきてくれる人に届けたいです。



湖風祭では、ミニ演奏会や楽器体験会を通じて、オーケストラの魅力を広く発信しています。



## コロナ禍、2人からつないだ県大オケ

活動停止や運営体制の縮小など数々の困難に直面しながらも、仲間やOB・OG、地域の支えを力に県大オケをつないだ中村さん。その歩みを振り返ります。

### コロナ禍、2人だけの運営母体で。

1年生の頃は、コロナ禍で演奏会が中止になるなど、ほとんど活動できない状況でした。2年生になり、同期は私ともう1人のみ。先輩は引退し、運営の母体は2人だけ。音楽系の部活経験がない私たちにとって、演奏会の運営も楽器の演奏法も、部活の動かし方も、すべてが初めてのことばかりでした。



### 活動を続けられた理由

何よりも、楽器の練習と合奏が純粋に楽しかったこと。弦楽器が弾ける唯一の部活で、30年続いてきた歴史があるこの場所を、私の代でなくしたくないと思いました。そして、OB・OGの皆様、エキストラの方々、顧問の先生など、本当に多くの方の温かい応援と支えがあり、続けてこられたと思います。

### 一番苦労したこと (2つの壁)

①人数不足 …オーケストラの曲を演奏するには最低50名は必要ですが、人数が足りませんでした。→OB・OGさんやエキストラさんなど約40名ほどにご協力いただき、総勢50名ほどで演奏会を開催することができました。

②運営のノウハウ・人手不足 …先輩がおられず、運営のノウハウも0から再構築する必要がありました。初めは、先輩だからと1人で抱え込んでしまい、部全体が停滞してしまったことも。しかし、顧問の先生の助言や後輩たちの支えもあり、「皆を巻き込むことの大切さ」に気づくことができました。人と人、顔を合わせて腹を割って話すことからしか何も始まらない。自分から積極的にコミュニケーションを取るようになりました。そんな中でも部活を続けてくれた後輩や、見守ってくださった先生方に、心から感謝しています。

### 今の部員たちへ思うこと

まず何よりも「感謝」です。私がやり残してしまった課題を、後輩たちは1つずつ丁寧に解決し、部をより良い形にしてくれています。本当に頼もしいです。

この県大オケでの活動を通じて、たくさん失敗し、周囲に助けられながら、音楽の楽しさや人と深く関わる大切さを学びました。様々な年代の卒業生や社会人の方と関わる機会が多いことも、この部の大きな魅力だと思います。



滋賀県立大学オーケストラが、後輩たちにとってこれからも、音楽を楽しみ、人と出会い、失敗からも多くのことを学べる、そんな温かい場であり続けてほしいと願っています。



### 第30回記念定期演奏会 ひこね市文化プラザグランドホール

2026年9月21日(月・祝)  
開場 13:00 / 開演 13:30

ベートーヴェン:  
交響曲第5番「運命」  
シューベルト:  
交響曲第7番(未完成)



今年は  
ベートーヴェン  
「運命」!



## クラブ・サークル紹介

# After School Report

## オーケストラ部

オーケストラと聞くと、大人数で演奏する姿を思い浮かべる人も多いかもしれない。でも、県大オーケストラ部の現在の部員は9人。少人数だからこそ、一人ひとりが主体となって音楽をつくるのが、この部の魅力だ。先輩や仲間と支え合いながら、「県大オケ」の音を30年間つないできた。

## 少人数だからこそ、一人ひとりが主体となって音楽をつくる。

### メンバー紹介 現在の部員は9人! ※所属メンバーの一部を紹介しています。



部長	みんなを支える部長	県大オケのムードメーカー	県大オケを支える司令塔	音楽を楽しむオーボエ奏者	表現を楽しむ若き奏者	響きを追求めて県大オケへ	期待の新戦力	歴史をつなぐ存在
森川 愛道	飯田 和宮	中尾 壮太	玉村 理奈	松家 大悟	椿 紗良	出田 佳規	中村 緋菜	
チェロ 3年生	コントラバス 3年生	トロンボーン 3年生	オーボエ 2年生	ヴィオラ 2年生	ヴィオラ 2年生	ヴァイオリン 1年生	ヴァイオリン 大学院 2年生	
機械システム 工学科	人間関係学科	地域文化学科	生物資源 管理学科	生物資源 管理学科	生活栄養学科	機械システム 工学科	環境動態学 専攻	
幼い頃から親しんできた音楽。オーケストラでは自分の音で表現しながら、仲間と一つの音楽をつくる楽しさを感じています。	中学から続けるコントラバスで入部。初心者も経験者も一緒に成長できる温かな雰囲気があります。	家族の影響で音楽に親しみ、現在は学生指揮者としても活躍。部員を支える存在として合奏をまとめています。	吹奏楽からオーケストラへ。練習した分だけ応えてくれるのがオーボエの魅力。自分らしい表現ができることが魅力です。	大学から始めた人も経験者も、それぞれのペースで成長できる環境。音楽が好きの人に来てほしいです。	中学から続けてきたヴィオラを大学でも続けたい。その思いで入部し、今も楽しく演奏を続けています。	見学で出会った先輩たちの人柄に惹かれて入部。音楽を楽しみながら、日々成長を続けています。	大学から楽器を始めた一人。多くの支えに感謝しながら、県大オケの歴史を未来へつないでいます。	

### オケ部のいろいろ

練習スケジュール	部の雰囲気	部費	こんな人に来てほしい!	公式 Instagram
月・水・金 18:00 ~ 20:00 頃 日 演奏会や行事の予定に応じて実施 ※本番前は日曜練習を中心に、集中して練習を行います。	 学年を超えて仲が良く、何でも相談できる雰囲気です。	¥ 月 2,000 円 (楽譜代・会場費など)	音楽が好きなお人。 新しいことに挑戦したい人。 仲間と何かをつくりたい人!	部員たちの練習風景や活動の様子を Instagram で発信しています。ぜひチェックしてみてください!  USP_ORCHEGRAM



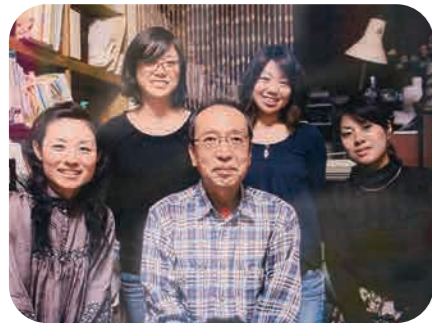
## 「『教育』を読む会」のお誘い

教育科学研究会の月刊誌『教育』最新号から興味のある論者を選んで読み、お茶やお菓子を傍らに意見交流する「教育」を読む会」を、毎月1回開催しています。  
参加申し込みは不要で、人間関係学科・教職課程履修者以外の方も大歓迎です！

場所 人間文化学部棟 D3-208(杉浦研究室)  
日時 杉浦研究室前のホワイトボード or 授業での案内を参照



# 突撃！ jiman な先生



▲「いくちゃん」と同級生  
杉浦先生は左から2番目

ジオ放送づくりもしました。どの詩もすごく素敵で、教育は学校だけのものとは限らないな、子どもの発達保障の理想像がここに凝縮されているなと思います。それ以外にも素敵な教育実践記録をたくさん紹介してくださって、自分もこんな教育を受けたかったと感じました。先生の研究室は常に開いていたので、気軽に中国茶を飲みながらお話しつつ、先生が書いた文章や森崎さんからの手紙を読まされました(笑)。特に教育実践記録については、実際に読んでみて子どもと先生の姿がありありと目に浮かぶ実践記録は素敵だと仰っていて、今でも本当にその通りだと思っています。そして、教育実践記録を読みながら現実の先生の姿を受け止めつつ、実践を理論的に支える手段を考えることも大切だと思うようになりました。

「学校嫌い」から教育学の世界へ。  
その背景や研究内容などを、  
たっぷりとお聞きしました。



人間文化学部 人間関係学科  
すぎうら ゆかり  
杉浦 由香里 准教授

### 先生から見た県大生の特徴は？

真面目で素敵な学生が多いと思います。また、課外活動も活発で、自分たちで創り上げる活動が豊かに展開されている点がよくいいなと感じます。人間関係学科の学生は、様々な授業での意見交換を通して自分なりの意見や考えを形成しています。多角的な視野やコミュニケーション能力が自覚的にも無自覚的にも育っているように思います。そのため、教員が何かせずとも、みんな立派に就職していくので「なんてありがたい素敵な学科なんだ」と常々思っています。他方で、悩みを1人で抱える学生も増えたように感じていて、少し心配しています。1人で悩まず「SOS」を発してほしいし、言葉に出さなくても、気軽に研究室を訪問してくれたらと思っています。お茶を飲みに来るつもりで自由に過ごして、少しでもほっとしてくれたらいいなと思います。

### 受け持ちの授業を紹介してください

教育学概論では教育思想や教育理論がどのように論じられてきたかを学ぶことを通じて「よい教育とは何か」を学生自身が考えていくことを目指しています。近代公教育制度が確立されるまでの歴史的過程を学ぶ中で、自分自身の大事にすべき教育観や人間観、子ども観を培ってほしいと思って授業を作っています。教育法制論では、現代学校教育制度と教育法制の関係や憲法や教基法の理念に基づいて解説しています。私は、憲法の幸福追求権の下で民主的な教育のあり方や教育制度を作り上げていくという理念を、戦後日本社会が未だ実現できていない点に課題があると捉えています。そこで、理想と現実の矛盾を捉えつつ、幸せ

### 研究内容を紹介します

私は教育行政研究を専門にしています。具体的には、教育行政学で今日言われている諸概念の歴史的形成過程を追っています。特に、明治5(1872)年の学制に代わって定められた「教育令」という教育に関する法規を中心に、この時代の地方教育行政を研究しています。この時代は明治政府による西洋の制度を基にした「上からの近代化」と、近代思想を学んだ民衆の「下からの近代化」が対立する時代です。外国の制度をそのまま当てはめるだけでは日本の現実にそぐわないという矛盾が明らかになると同時に、「押し付けられた近代化」に対する民衆の反発がありました。その対立の中で地域の実情を踏まえながら、どのように近代公教育制度を創りあげることが模索された時代だと思っています。

自由民権運動に対する弾圧がありつつも、「教育令」期には各府県で県議会が開催され、地域新聞の創刊が相次ぐなど言論が活性化される時代です。そこでは、西洋近代思想を積極的に取り入れた民衆が様々な意見を述べるようになります。当時の人々が近代教育システムを創り上げる上でそれらの何を取り入れ、何をとり入れなかったのか、また地域の諸現実との狭間で何が問題視されていたのか、地域新聞や県会議事録、教育雑誌なども参照しつつ探究しています。大日本帝国憲法と教育勅語によって日本の近代公教育制度の枠組みが成立する以前の混沌とした時代であるからこそ、未発の契機があります。それゆえ、「教育令」期の時代はすごく面白く、魅力を感じています。研究の根底には、現代の教育行政のシステムと学校のあり方に対する問題意識があります。戦前のような天皇制の下での教育への国家支配から脱して、日本国



▲教育学概論(前期月曜4限)の授業風景

な社会や学校を創るという理想の実現に向けて、現状を客観的に認識し、未来を拓く主権者として変革への展望を持つことを目指して授業を作っています。子どもを幸せにすることが教育学の使命であり、学校の任務です。なので、それを実現する教育について授業を通して考えたいと思っています。

### 地域との関わりはありますか？

豊田市長や西尾市長、伊賀市長、愛知県教育史など、自治体史編纂に携わってきました。膨大な量の史料があつて整理や解説に時間も体力も要りますが、地域の貴重な歴史資料に触れられる機会でもあり、教育史研究者の責務としてもやるべき仕事だと考えています。また、自治体の施策形成に携わることもあります。愛荘町では「これからの愛荘の教育を考える円卓会議」の会長として放課後の居場所づくりを検討しています。1970年代に始まった校庭開放にヒントを得て「見守り付き校庭開放」事業の導入を進めています。米原市では「学びあひステーション」の運営審議会の会長として、館長さんや利用者の方々との運営のあり方を議論しています。さらに、以前は高島市教育委員会事務点検評

### 研究のきっかけを教えてください

実は、最初から教育学を志望していたわけではありません。というのも、小・中・高等学校で経験した管理主義教育に違和感を覚え、理不尽さや疑問を抱いていたので、高校時代は「人間とは何か」を探究したくて文化人類学系の大学を志望していました。ところが、ひょんなきっかけから愛知県立大学の児童教育学科(通称:じきょう)に入学することになりました。学校が嫌いだったのに、気がつけば教育学の道を進んでいました。

そこで故近藤郁夫先生通称「いくちゃん」と出会いました。特別活動論の授業で「グラウンドに出て遊ぼう!」という風に、ユニークな授業をされる先生でした。他の授業でも、名古屋の学童保育実践を綴った森崎照子さんの詩の中から好きなものを選び、録音して皆で聞くという評価委員として、教育委員会事業に対する外部評価にも携わっていました。大変な作業でしたが、教育行政の役割や重要性を再認識する機会になったと思います。



▲これまで編纂に携わった自治体史。この他、滋賀県史などにも携わる。

### 読者にメッセージをどうぞ!

既存のあり方を絶対視せず、何事にも疑問を持つことを大事にしてほしいと思います。生きづらさを感じたときは自分の努力不足のせいだと自分だけを責めず、「社会の方にも問題があるのでは?」と社会のあり方にも目を向けられるようになってほしいです。そして、社会に働きかける主体になってほしいです。社会の矛盾に気付く、社会に働きかけることで、「なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつくる主体」へと自己を変革することができると。社会矛盾が深まるほど共に立ち上がる仲間も増えていくので、悲観せずむしろ明日への希望だと捉え返して、複眼的思考を大事にしてほしいです。

生き苦しさや悩みを1人で抱え続けると孤立していきます。だからこそ、誰かに話すことで「1人じゃない」と思うことが大切です。県大で自分の可能性を思う存分発揮しつつ、仲間と共に人生を切り拓いていってほしいと願っています。

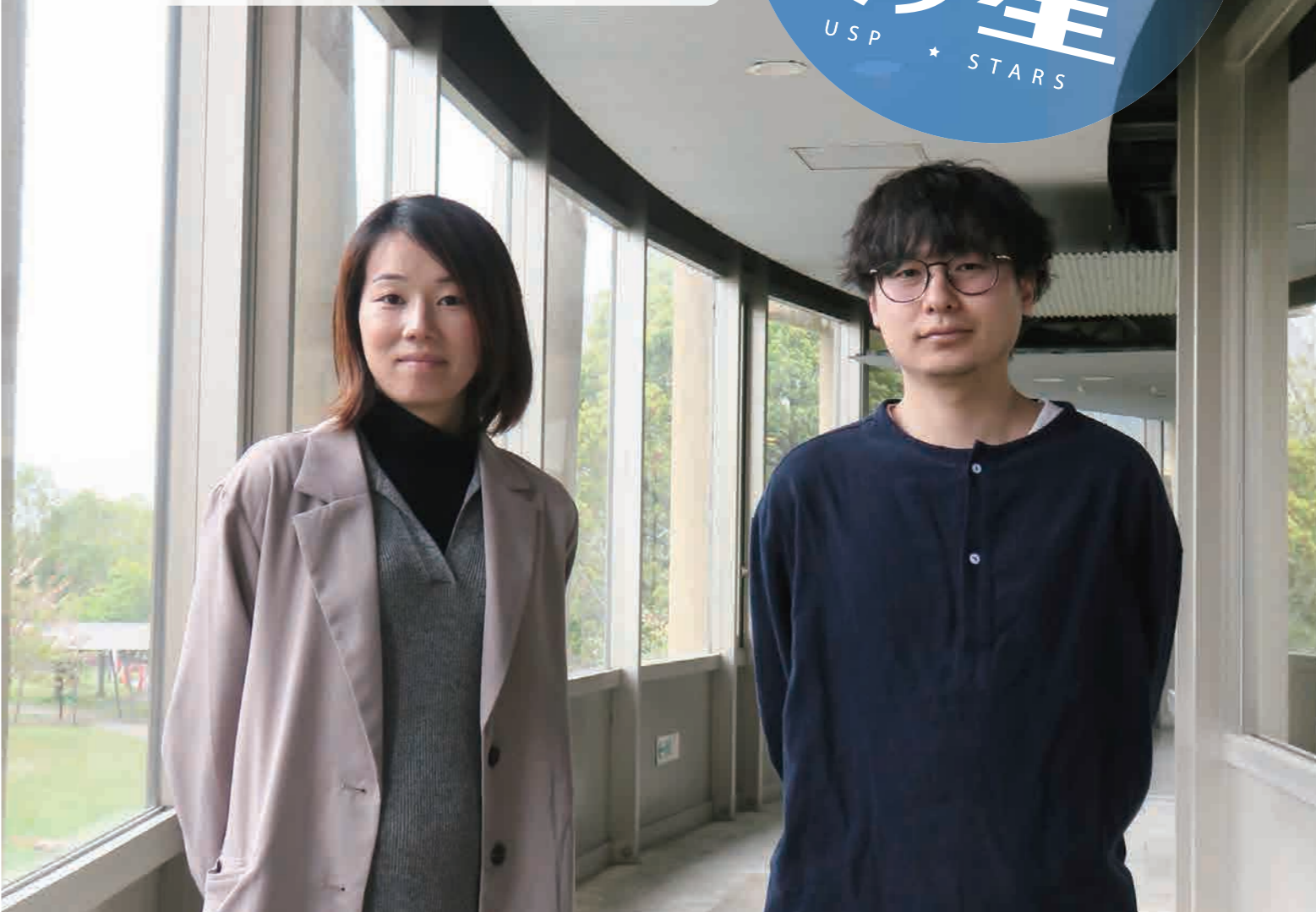


## キャンパスは琵琶湖。

## テキストは人間。

このモットーを胸に  
社会で活躍する卒業生の原点に迫るインタビュー

今回の県大の星は、2025年に開催された大阪・関西万博のトイレ設計を手掛けた建築家・大野宏さん、小林広美さん。滋賀県立大学で建築を学んだお2人は、“残念石”を使った独創的な建築に挑みました。大学時代の思い出を振り返りながら、現在のお仕事や万博建築の裏側について伺いました。



### 小林 広美 こばやし・ひろみ

環境科学部環境建築デザイン学科 2014年度卒業  
滋賀県出身。一級建築士。滋賀県立大学卒業後、滋賀県内の設計事務所で経験を積み、住宅設計事務所「studio m!kke」を設立。現在は滋賀県を拠点に、住宅設計やリノベーションを通して、一人ひとりの暮らしに寄り添う家づくりを行っている。

### 大野 宏 おおの・ひろし

環境科学部環境建築デザイン学科 2014年度卒業  
環境科学研究科 環境計画学専攻 2017年度修了  
滋賀県出身。滋賀県立大学大学院修了後、NPO 法人「Studio on\_site」を設立。土地の素材や地域に受け継がれる技術を活かしながら、その土地ならではの建築づくりに取り組んでいる。現在は国内外で活動するほか、大学でも教育に携わっている。

## なぜ「滋賀県立大学」を選んだのか

**小林**.. 私は生まれも育ちも滋賀県で、建築を学びたいと思ったのは高校生からです。最初は工学部のイメージが強く、県大は候補に入れてなかったのですが、自分がやりたい住宅や都市など幅広い分野の建物の設計ができること知り、受験しました。  
**大野**.. 僕も滋賀県出身です。両親が国公立に行けば1人暮らしをしてもいいと言うので、京都か滋賀の公立大学に絞られました。推薦入試があって、高校から行きやすく、建築学科があって、公立であればいいという条件から、この大学を選びました。

## 身近な日常から建築の世界へ

**小林**.. 中学生ぐらいからファッションやデザインなどに興味がありました。私は理系で、デザインができる仕事がないか考えるようになりました。加えて、テレビでリフォームをする番組を見て、「おじいちゃんやおばあちゃんの家を綺麗にしたい」という思いがきっかけで、建築をやりたいと思うようになりました。  
**大野**.. 小さい頃からプロダクトデザインみたいな小さいデザインが好きでした。デザイン学科みたいなところが自分には合っていたのかなと思います。また、新興国と途上国の不平等を解消したいと考えるようになり、ものづくりで関われないかなと思うようになり、井戸やトンネルなど、土木系になるとスケールが大きくなります。自分の好きなことと将来やりたいことの両方を考え、建築の道に進もうと思いました。

## 充実の学生時代

**大野**.. 僕は2011年入学で、東日本大震災が起きた翌月、環境建築デザイン学科に入りました。建物がすべて流されてしまったような状況の中で建築を学び始めた世代です。当時は各大学で復興支援のプロジェクト

クトが立ち上がっていました。僕も1年生の頃から建築学科の陶器浩一研究室のプロジェクトに参加し、被災地の活動に携わり、そこから建築にはまりました。そこからインターンに行ったり、世界中の建築を見に行ったりしました。芦澤竜一先生の研究室に1期生として所属し、先生から与えられた課題を寝ずにやりながら建築を見に行ったり、外部のコンペにも参加したり、やれることをすべてやるような建築生活でした。



▲大野さん 学生時代の様子

**小林**.. 私は県大に入る時に木匠塾(※1)という活動があることを知り、それをやりたいと思っていました。1年生から4年生までずっとやっていましたね。あとはバイトしながら課題をやるような生活を送っていました。



小林さん 木匠塾の様子

## 現在の主な業務

**大野**.. 社会に対して意味のあることをすることが主です。自分たちの思想を押し出していくことと、社会に意義がある(経済的利益だけでなく、持続可能性や幸福度を高める)ことをする人の建築を作ることの2パターンがあります。その中で小さいプロダクトから、大きい建築までの範囲の中で、ものづくりをしながらコミュニティも一緒に作るのが主な業務です。



▲台湾の蒸籠職人との製品開発の様子



▲大野さんの設計物 (Naiko 近江八幡市「まちや倶楽部」)

※木匠塾  
木匠塾(もくしゅうじゅく)とは、地域の課題を木によるものづくりで解決することを目指す指した科目です。地域との関わりを重視し、設計から制作までを学生自身が主体的に行う、本学科の特徴的な科目の1つです。

小林…私は住宅や店舗など、主に個人のお客さんに対して仕事をしています。最近ではマンションのリノベーションの設計に携わっており、改装などの空間をデザインする業務を行っています。今後は、万博のつながりで規模が大きい建築もやりたいと考えています。――規模が大きい建築、例えばどのようなものを作りたいですか？



▶作業風景(打ち合わせ)の様子  
▶小林さんの設計物 (Lidm hair design)

### 大学での経験が今につながる

大野…東日本大震災の経験を通して、その場にあるものを使い、現地の人と一緒に建築をつくるのが僕のメインテーマになっています。大学在学中、フィリピンの被災地復興プロジェクトを行いました。危険を伴う場所でも、先生が背中を押して自由にやらせてくれましたね。近江楽座の「タクロバン復興支援プロジェクト」(※2)などの活動も含め、学生の挑戦を後押ししてくれる環境があります。これらの経験が今の活動に生きていると思います。

※大野さんは2015年、学生主体の地域貢献活動を行う近江楽座団体の一つ「タクロバン復興プロジェクト」を自身で立ち上げました。

### オープンな環境で自由奔放に

小林…大学は琵琶湖が徒歩圏内にあり、ほかの大学と比べて緑が多いところが魅力です。あとは地域の人とふらっと行きやすいような門構えとか…。地域の人をオープンに受け入れる感じもこの大学の良さだと思います。今回の万博もいろんな人を巻き込んで一緒に話をしながら物事を進めていきました。学生時代にこのようなことを経験してきたからこそ、すんなり受け入れられたと思います。地域に開けているところや、自然豊かで琵琶湖に近いところは魅力なのかなと思います。

大野…制限がすごい少ないと思います。先生も自由な人が多いです。通常であれば、できないこと、細かな決めごとがあるとあります。しかし、県大は広大な土地と、ゆったりとした環境があります。「自分がやりたいならやってみる」みたいな指導がありました。何でも挑戦という感じです。近江楽座もそうですけど、学生に挑戦させてくれる土壌が揃っているのは、他の大学と全く違うと思います。他には、先生との距離が圧倒的に近いですね。ご飯も一緒に食べるし、何か相談があったら研究室を叩けばすぐ聞いてくれるし、本当に貴重な大学だと思います。それが魅力です。

### 悔いの残らない学生生活を

小林…私はもっと学んでおけばよかったと思います。大野くんは学生の頃からずっと建築人間というのが見て分かるぐらい建築建築していたんですけど、それに比べたら全然建築に打ち込めていなかったと思います。社会に出て実務とかやると、もう時間がないうちです。学生の時にバイトばかりしていたので、本当の悔いなどがあるところに行けばよかったか、思い残すことや悔いなどがたくさん出てくるので、学生のうちはお金や時間がなくても、無理にでもやりたいことをやる、行きたいところに行く方がいいなと思いました。

大野…1つは小林さんが言っているようなことで、可能な限りいろんな場所に入り込んで、旅をして、いろんな人と会う時間がとても大事ですね。社会に出ると時間がなくてできないので、学生という与えられた環境の中で、バイトをせずに親のすねをかじる、かじれるならかじってやるくらいの気持ちで大事だと思います。もう1つは、いかに失敗するか。社会に出て失敗してもフオローしていかないとダメですね。学生時代にもフオローしていかないとダメですが、学生は失敗してもフオローというフオローの強さが全然違いますね。学生時代にどれだけ失敗できるか、何か失敗すればそれだけ成長するから、成功するとか考えずに失敗をしまくる、自分のやりたいことをやりまくることが1番大事かなと思います。



小林…木匠塾で道具を作って、加工する材を切り出すところから、図面を描いて加工して、組み立てるという一連の流れを経験しました。現場を4年間経験したので、現場も理解しつつ設計ができるのは生かされていると思います。現場がある程度知った状態から業務に入れるので、これまでの経験が役立っていますね。

### 万博のコンペ選出とその舞台裏

大野…その頃はコロナ禍で日本にいました。石を使って、どうすれば自然の力や形を生かしたものを使えるかを探っていました。実験を繰り返して、ある程度のスケールの模型ができた時点で、これで実際に建ててみたいと思うようになりました。ちょうど若手の建築家を対象としたトイレと休憩所他の設計を募集する万博のコンペがあり、実現できるかもしれないと思い応募しました。このとき小林さんにも声をかけました。――小林さんはどのような心境でしたか？

小林…「マジか」という感じでした(笑)。とりあえず応募できる準備はできたんですけど、バタバタしながら作業をしたので、慌ただしく時間だけが過ぎていきました。案出しの時に石でやりたいって言われた時は、正直驚きました。グリッド状に柱を置いて設計することだけをしてきたので、石を使って建築するって、ちょっとどうということ?!ってなりました(笑)。それを図面にしていくのはかなり苦戦しましたね。



▲万博建築物設計中の写真

## Memories of school days

～県大時代の思い出～

### 大野 宏さんの思い出

東日本大震災の復興に携わった経験とフィリピンの貧困の地域に住んでいた時の記憶が1番大きい。様々な方と会う中で自分の知らない世界や自分の考えの変化を味わってきました。



▲2019年、フィリピンで建物完成を祝うお祭りの様子

### 小林 広美さんの思い出

製図室などでみんなで楽しく過ごした思い出が印象的です。みんなでIHや鍋を持ってきて、鍋パーティーしたりとか。家かなと思うくらい本当にずっとそこにいるみんなでわいわいやってたので、それが1番記憶に残っています。



▲製図室(2026年現在の様子)



▲学生時代の様子

## 地球の形跡 / Traces of Earth (トイレ2)



この建築は、かつて大坂城に行くはずだった「残念石」を使用しており、約400年前に大坂城へ石を運ぶ人々の姿を描いた絵から着想を得ています。その絵が、労働でありながら祭りのような高揚感をもって石を運ぶ様子を描いていることから、今回の万博もまた「祭りのように」建築が生まれる場であってほしいという思いで、この石を使用しました。現代社会では、明確な計画や目標を先に定め、人や物を目標に向かって実現しようとする傾向がありますが、そこに無理や苦しさが生じていると感じています。本来は、その場所にある人や素材がもつポテンシャルを起点に、行き先は曖昧なまま自然にものが形づくられていくべきだと考えています。

大きな石そのものもつ自然の力と、400年前の人間の営みの記憶が重なり合うことで、人為的に組み立てる建築とは異なる、より大きな力を宿した建築が生まれるのではないか。その思想が、この建築を生み出した理由です。

卒業生インタビュー「県大の星」は今号から県大 jiman に仲間入り！！  
これまでの県大の星のバックナンバーは右のQRコードからご覧いただけます。



滋賀県立大学 オリジナル日本酒  
「湖風」のお披露目会を開催しました

課外活動団体「日本酒プロジェクト」が、東近江市の喜多酒造株式会社、および滋賀県立大学生協と連携して醸造に取り組んだ日本酒「湖風(こふう)」のお披露目会を5月22日(金)に開催しました。当日は、喜多酒造代表による講話のほか、日本酒の飲み比べやプロジェクトメンバーとの意見交換会が行われました。



【理系進路選択支援プログラム】  
なぞ解きイベント『**迷宮大学と消えたひこにゃん7**』  
を開催しました

本学では理系進路選択支援プログラム【目指そう！未来を創る理系クリエイターin滋賀】を立ち上げ、理系進路の魅力を感じていただけるイベントを行っています。



©彦根市

今回は本学にて5月23日(土)に小学5・6年生、中学生、保護者、教員を対象に、理系的思考を体験するイベント「迷宮大学と消えたひこにゃん7」を開催し、総勢194名の方にご参加いただきました。謎解きを通して「理系的な思考」を体験いただくことをねらいとし、複数のチームに分かれ、キャンパス内に散らばめられた数々の謎を解き明かして、ひこにゃんを探す企画を行いました。



WEB連載記事「**県大の研究者！<キワメビト>～イマとコレマデとコレカラと～**」

本学の研究の魅力について学生と先生が語り、学生目線で綴るインタビュー形式のweb記事連載。本企画の発案者でありインタビュー記事の執筆者は、工学研究科先端工学専攻の小山奈津季さんです。第7号では、井手学長の特別インタビューも掲載しています。

研究室やゼミを選ぶ際の参考や、県大で学生や先生たちがどんな研究をしているのか皆さんに知っていただくきっかけになれば幸いです。ぜひ、ご一読ください！



WEBサイトはこちらから



県大イベントガイド

10/31(土)  
11/1(日) 第32回湖風祭

地域に開かれた大学祭「湖風祭」を開催します。フリーマーケットや模擬店をはじめ、ステージ企画や展示など、子どもから大人まで楽しめる催しが盛りだくさん。秋のキャンパスで、学生と地域がつくるにぎやかなひとときをお楽しみください。



湖風祭  
同日開催

学生と話せば、県大がもっと見えてくる。  
「**在学生による大学・学科紹介**」実施

湖風祭期間中、高校1・2年生向けイベント「在学生による大学・学科紹介」を実施します。在学生による学科別個別相談会やキャンパス一周ツアーを通して、滋賀県立大学の学びや学生生活を紹介します。実際に学ぶ学生だからこそ伝えられる県大の魅力やキャンパスライフを聞いてみませんか。湖風祭で盛り上がる学生たちの様子もあわせてご覧いただけます。



県大 topics

2026年1月～6月

開学30周年記念  
『**びわ湖を歩くびわ湖と考える**  
**滋賀まるごとフィールドガイド**』を出版しました

本学が令和7年度(2025年度)に開学30周年を迎えたことを記念し、環境科学部の現役・元教員および卒業生等計42名が寄稿した記念本を令和8年2月に出版しました。

環境科学部は、環境科学の教育・研究を行う日本で最初の学部として、1995年4月に本学開学と同時に開設され、これまでこの分野をリードしてきました。本書は環境科学部のこれまでの多様な活動の成果や現在の様子をわかりやすくまとめたものになっています。

全国の書店およびネットでもご購入いただけますので、ぜひ一読ください。



出版社サイトはこちらから



近江楽座「**竹林GAKU**」が地域団体「**鳥居本T63**」と  
『**しがのふるさと支え合いプロジェクト**』協定式に  
出席しました

令和8年1月16日(金)、滋賀県が推進する「しがのふるさと支え合いプロジェクト」の協定式に本学の近江楽座学生団体「竹林GAKU」と地域団体「鳥居本T63」が出席し、竹林整備や竹林を活用した地域活性化に関する協定を締結しました。

このプロジェクトは、人口減少や高齢化、荒廃農地の増加といった課題を抱える中山間地域の活性化を目的に、農村集落と大学などが協定を締結し、農地保全活動や都市農村交流に取り組む滋賀県の施策です。

竹林GAKUは、犬上川沿いの竹林整備を中心に、放置竹林の解消や景観・環境の保全に取り組んでいます。



Instagramはこちらから



環境建築デザイン学科・生活デザイン学科 学生有志  
『**融解するかたち**』(合同展示)を開催しました

環境建築デザイン学科と生活デザイン学科に所属する学生有志による合同展「融解するかたち」が3月1日(日)～3月9日(月)まで湖・Labo(コラボ)(滋賀県彦根市元町1-30)にて開催されました。本企画は今回で6回目となり、両学科の学生が授業内で制作した作品をブラッシュアップし、展示を行いました。



吹奏楽部が滋賀県アンサンブルコンテストで**金賞**、  
関西大会で**銀賞**を受賞しました

令和8年1月18日(日)、第54回滋賀県アンサンブルコンテストの大学の部において、本学吹奏楽部サクソ4重奏が金賞を受賞しました。併せて、2月11日(水)第52回関西アンサンブルコンテストで銀賞を受賞しました。今後とも吹奏楽部にご声援をお願いいたします。

